

名称 倉敷市(交通局), 所在地 岡山県倉敷市千鳥町, 資本金 4,298 万円, おもな事業 地方鉄道, 旅客自動車運送(一般乗合 15km 一般貸切)。鉄道従事員 70 人, 保有車両機関車 蒸気 2, 内燃 1, 内燃客車 3, 客車 8, 貨車 31 両。

沿革 本鉄道は三菱重工業株式会社水島製作所専用鉄道として昭和 18・7 倉敷・水島間 9.4km を敷設し, 同 23 年水島工業都市開発株式会社が地方鉄道の免許をうけ開業, 同 27・4・1 倉敷市へ譲渡したものである。

2 地方鉄道線

岡山県にあり, 国鉄山陽本線倉敷駅に連絡, 倉敷・水島港間 10.1km 単線, 動力蒸気・内燃, 軌間 1.067m, 旅客・貨物輸送を目的とする。昭和 23・6・22 免許, 同 23・8・20 運輸開始。

3 運輸概況

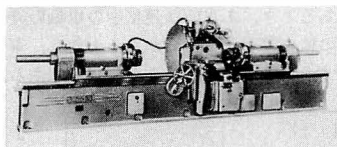
項 目	年 度	昭和 28	29	30
旅客輸送人員(千人)		1,139	1,137	1,087
人 キ ロ (千)		7,756	7,916	7,434
貨物輸送トン数(千 t)		156	188	196
ト ン キ ロ (千)		1,470	1,822	1,864
旅客収入(千円)		11,453	11,256	9,922
貨物収入(〃)		21,619	22,087	24,269
運輸雑収(〃)		1,533	1,685	1,981
収入合計(〃)		34,604	35,027	36,172
営業費(〃)		32,120	30,308	29,781
営業利益(〃)		2,484	4,720	6,391
営業係数(%)		93	87	82

(原 功)

くらよしせん 倉吉線 山陰本線上井駅から西南方に延び倉吉を経て関金駅に至る 15.2km の線。山陰線に属し線路等級は簡易線である。

明治 45・6 上井と姫新線中国勝山付近を結ぶ鉄道の一部として上井・倉吉間を建設, 倉吉線と呼ぶこととし, ついで昭和 16・5 関金まで延長した。(森 寿寿)

クランクじくけんさくばん クランク軸研削盤 (英) crank shaft grinder 自動車および気動車などの機関の主要部であるクランク軸の, ジャーナル部とピン部の研削仕上るに使用する研削盤である。ガソリン機関とディーゼル機関のクランク軸は, 運転中の

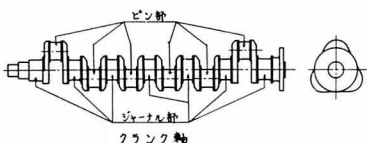


クランク軸研削盤

の負荷により摩耗変形するので, その修正を本機にかけて行うが, 図示のように変形しやすい形状をしているから, 加工精度の確保には機械に高度の性能を必要とする。本機は加工精度 5μ を保証するもので,

クランク軸

油圧機構を各部に用い操作に容易なものである。といし軸台が中央後方にあつて前後に動き, 切込みを行うと同時にいし軸が軸方向に研削する幅だけ



クランク軸

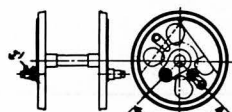
微動する。テーブルは油圧により左右に動いて, 加工位置(各研削すべきジャーナルまたはピン部)にクランク軸を定める。テーブル上の左右主軸台は車輪旋盤と同じように両側駆動で加工物のねじれを防ぐ。両主軸台にはクランクピン部を研削する場合, ピン中心線を主軸台中心線に一致させる調心装置がある。機械中央手前にあるものは「ふれどめ」装置で, 研削圧力による加工物の移動を防ぎ, 加工精度を出すための主要な装置である。とくに長物の場合には補助ふれどめの使用が必要となる。加工クランク軸長さの最大は 2,000 mm, 自重は 14.5t ある。

(山本 稷)

クランクピンけんさくばん クランクピン研削盤 (英)

crankpin grinder 蒸気機関車動輪クランクピンの研削用と, 内燃機関クランク軸のピン部を研削するものとの 2 種類がある。

蒸気機関車動輪

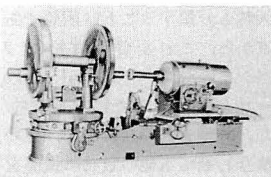


蒸気機関車動輪

後者はクランク軸研削盤とほとんど同一形状で, とくにピン部研削専用のものをいう。動輪ピンの摩耗変形の修正は従来旋削

後ローラ仕上るを行う方式をとっていたが, 近年熱処理によるピン部の表面硬化を行うように

なったため, 旋削による修正が不可能となり研削仕上るを必要とすることになった。これに使用する研削盤には動輪の両側ピンを同時加工する両頭式と, 片側ピンを研削し終った後加工物を回転して反対側の研削を行う単頭式(写真)とがある。動輪ピンは図に示すように, たがい 90° をなしているのでテーブルに取付ける場合には, バランスウェイトを上部にピン部を下方にする。[といし軸台] は水平と 45° をなす台上を動き所望の心出しを行えるようになっている。またピンの軸線方向に往復運動してピン長手方向の研削を行うことができる。加工しうるピンの直径は 200 mm であり, 単頭式の自重は 10t である。(山本 稷)



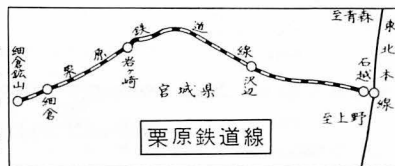
単頭式クランクピン研削盤

くりはらてつどう 栗原鉄道

1 事業者の概要

名称 栗原鉄道株式会社, 本社 宮城県栗原郡若柳町, 資本金 5,000 万円,

おもな事業 地方鉄道のほか一般乗合旅客自動車運送事業路線 136 km および一般貸切旅客自動車運送事業。鉄道従事員 215 人, 保有車両電気機関車 3, 電動客車 3, 客車 6, 貨車 8 両。



沿革 大正 7・6 石越・岩ヶ崎間の軌道敷設特許を受け, 同年 12 月栗原軌道株式会社を設立し同 10・12 営業を開始した。昭和 17・8 軌道を地方鉄道に変更許可, 同 18・1 栗原鉄道と社名を変更した。昭和 25・9 全線を電化し, また同 28・12 軌間を 1.067 m に拡張認可を受けた(軌間拡張工事は未完成である)。

2 地方鉄道線

開業線 宮城県下において東北本線石越駅に連絡し, 石越から細倉鉾山に至る延長 26.2 km の単線, 動力は電気, 軌間は 0.762 m で旅客および貨物運輸の鉄道である。石越・岩ヶ崎間は 大正 7・6・22 特許を受け同 10・12・20 石越・沢辺間を, 同 11・12・17 沢辺・岩ヶ崎間を運輸開始した(昭和 17・8・20 許可を受